

新しい園芸品種を作り出す

染色体倍加技術を用いた新品種の育成

技術分野分類 6001：育種学

技術キーワード A：植物育種・遺伝

産業分類 A-01：農業

内 容	概要	コルヒチンやオリザリンなどの細胞分裂阻害剤を用いた染色体倍加技術を活用して新品種を育成する。
	従来技術・競合技術との比較(優位性)	化学薬剤により染色体を倍加して複二倍体となった植物は、種遺伝的に遠い植物間での交配が可能となる。当研究室では、スパティフィラム‘メリ’の染色体倍加を試み、‘フェアリーウィング’として種苗登録申請を行った(図1参照)。また、アメリカフヨウ、フヨウなどの染色体倍加に成功し、現在これらの種間雑種の育成を試みている(図2参照)。
	本技術の有用性	種遺伝的に遠い植物間での交配により、新たな形質を持つ種間雑種を育成することが出来る。また染色体が倍加した個体は、花などの形質が大きくなる、大きさがコンパクトになるなどの園芸品種としての形質も改善される。
関連情報 (図・表・写真等)		 
		<p>図1. 二倍体のスパティフィラム‘メリ’(左)と四倍体の登録品種‘フェアリーウィング’(右)</p> <p>図2. 四倍体のアメリカフヨウの花(上)と二倍体のフヨウ(下左)と四倍体のフヨウ(下右)</p>
適用可能製品		・新品種の育成
技術シーズ保有者	氏名 所属・役職	福井 博一 岐阜大学 應用生物科学部 生物生産科学講座 植物生産科学 教授
技術シーズ照会先	窓口 TEL/FAX e-mail	岐阜大学 産官学融合本部 058-293-2025 / 058-293-2022 yugo@gifu-u.ac.jp

■知的財産

■試作品状況

無

提示可

提供可

作成日 2011年11月1日